

稲作情報 No.1

〔水稻育苗管理、大麦防除〕

水田農業レベルアップ委員会技術普及部会（農業試験場、生産振興課、JA中央会、JA経済連、主要農作物振興協会）

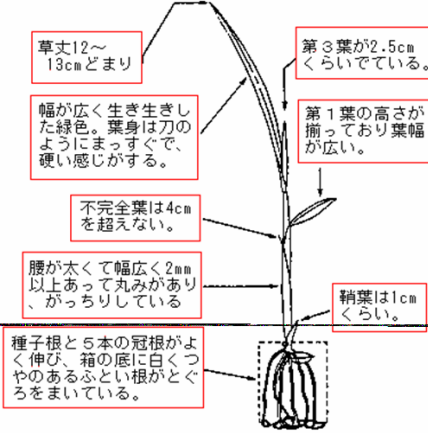
<http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/noushi/inasaku/2016inasaku.html>

- 向こう1カ月の気象は、天気は数日の周期で変わり平年より気温が高くなる予報です。
- 育苗ハウスの温度管理に注意しましょう。**
- 暖冬のため大麦の出穂期は平年より7日程度早まる見込み。今後の生育を観察し、適期に赤かび病防除を行いましょ。**

大麦

- 越冬後の草丈は平年より4cm程度長く、茎数は一部過剰な圃場もあるが、平均すると平年より少ない。葉色はやや薄い。
- 出穂予想は平年より7日程度早まり4/12頃となる見込みであるが、圃場によるバラつきがかなりある。








作業	作業の注意点										
赤かび病防除	<p>【防除時期、薬剤】</p> <table border="1" data-bbox="341 786 1605 968"> <thead> <tr> <th data-bbox="341 786 493 848"></th> <th data-bbox="493 786 841 848">時期</th> <th data-bbox="841 786 1605 848">薬剤、使用量、使用時期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="341 848 493 909">1回目</td> <td data-bbox="493 848 841 909">開花期(出穂期の5日後)</td> <td data-bbox="841 848 1605 909">トップジンM粉剤DL 4kg/10a 収穫14日前 ワークアップ粉剤DL 3kg/10a 収穫7日前</td> </tr> <tr> <td data-bbox="341 909 493 968">2回目</td> <td data-bbox="493 909 841 968">1回目の7～10日後</td> <td data-bbox="841 909 1605 968">(上記以外にも適用薬剤はあります。病害虫防除だよりを参照。)</td> </tr> </tbody> </table> <p>(出穂期は全茎の40～50%が出穂した日)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 出穂後、開花期に平均気温が15℃以上で降雨が続くときに多発する。被害粒混入限度0.0%を超えると出荷できない。 • 出穂状況を確認し遅れないように適期防除に努める。同一成分の薬剤連用は避ける。使用時期（収穫前日数）にも注意する。 			時期	薬剤、使用量、使用時期	1回目	開花期(出穂期の5日後)	トップジンM粉剤DL 4kg/10a 収穫14日前 ワークアップ粉剤DL 3kg/10a 収穫7日前	2回目	1回目の7～10日後	(上記以外にも適用薬剤はあります。病害虫防除だよりを参照。)
	時期	薬剤、使用量、使用時期									
1回目	開花期(出穂期の5日後)	トップジンM粉剤DL 4kg/10a 収穫14日前 ワークアップ粉剤DL 3kg/10a 収穫7日前									
2回目	1回目の7～10日後	(上記以外にも適用薬剤はあります。病害虫防除だよりを参照。)									
排水溝の手直し雑草対策	<ul style="list-style-type: none"> • 溝の中の土さらいなど、排水溝から雨水が速やかに排出できるように手直しを行う。 • 水稻作の準備に向け用水への通水が始まったときは隣接水田等からの浸水の有無を確認する。 • 圃場周辺を見回りカラスノエンドウを抜き取る。大きくなると麦に絡みついて取りにくくなるので、目立つ前に除草する。 <div data-bbox="1757 1133 1970 1276" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="1777 1282 1943 1310">カラスノエンドウ</p>										

作業	作業の注意点																	
浸種～催芽	<p>【種子消毒】 ・種子消毒等が必要な場合は、防除基準や防除指針を参考に種子消毒を行う。</p> <p>【浸種】 ・水温と日数に注意して吸水ムラを防止し、発芽揃いを良くする。 種子消毒薬剤の効果を上げるため、<u>浸種開始後3日間は水を換えない</u>。その後は必要に応じて水を換える。 ・浸種開始時には水温は15℃程度を確保し、そのときに10℃よりも低い水温とならないように注意する。 ・浸種が終わりに近づいたら籾の様子をよく観察し、吸水ムラになっていないか確認する。</p> <p>【催芽】 ・催芽温度は30～32℃。鳩胸状態で揃える。芽や根を伸ばし過ぎると播種時に種子が引っ掛かり均等に播種できない。</p>																	
播種～出芽	<p>【施肥量】 ・床土の施肥窒素施肥量は5月中旬以降に植えつけるコシヒカリで1.0g/箱とし、その他品種で1.5g/箱とする。</p> <p>【播種】 ・播種量はコシヒカリで一箱当たり130g、その他品種で150gとする。</p> <p>【出芽】 ・出芽温度は30～32℃。出芽期間は2～3日。芽を伸ばしすぎないように注意する。</p>																	
緑化	<p>【緑化】 ・出芽苗を育苗ハウスに並べる。苗箱の上に被覆資材を掛け、急に強い光が当たらないようにして白化苗の発生を防止する。 <u>被覆資材を掛けている間は床土表面が乾いていないか確認し、乾いていた場合は少量の水を散布する。</u>苗が黄色～黄緑色となったら被覆資材を外す。 ・育苗ハウスに苗箱を出したとき、あるいは、被覆資材を外した後、<u>床土が乾いていれば灌水する。</u></p>																	
硬化、馴化	<p>【温度管理】</p> <table border="1" data-bbox="341 799 1491 985"> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>昼間</th> <th>夜間</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>緑化</td> <td>20～25℃</td> <td>15～20℃</td> <td>10℃以下、32℃以上にしない</td> </tr> <tr> <td>硬化</td> <td>15～20℃</td> <td>10～15℃</td> <td>5℃以下、32℃以上にしない</td> </tr> <tr> <td>馴化</td> <td colspan="3">移植3日前頃から強風や低温時以外は外気にならず、5℃以下、32℃以上にしない</td> </tr> </tbody> </table> <p>・5℃以下の低温が予想される時はストーブをたくなどして保温する。夜間に被覆資材をかけた後、翌朝低温の心配がなくなった時は忘れず外す。</p> <p>・育苗ハウス内で生育差が大きい場合は育苗箱の位置を入れ替える。育苗箱の底面とハウスの床面に隙間があると生育差が出るので予め平らにしておく。</p> <p>【灌水、馴化】 ・朝、葉先に露を持っている場合は灌水しない。露が見えない時や育苗箱の縁の土が白く乾いている時は灌水する。 ・灌水は晴れた日の午前中に行い1回でたっぷりとする。午後3時以降はなるべく行わない。 ・移植3日前頃からハウスの横面のビニールを大きく開けて苗を外気にならず。霜が降りる日はやめる。</p> <p>【移植前の薬剤苗箱処理】 ・本田での病害虫防除のために、薬剤苗箱処理を行う場合は防除基準を守る。 ・水稻育苗後に育苗ハウスを利用して別の作物を栽培する場合は、跡作に苗箱処理薬剤の影響を出さないように注意する。</p>	時期	昼間	夜間	備考	緑化	20～25℃	15～20℃	10℃以下、32℃以上にしない	硬化	15～20℃	10～15℃	5℃以下、32℃以上にしない	馴化	移植3日前頃から強風や低温時以外は外気にならず、5℃以下、32℃以上にしない			 <p>草丈12～13cmどまり</p> <p>幅が広く生き生きした緑色。葉身は刀のようにまっすぐで、硬い感じがする。</p> <p>不完全葉は4cmを超えない。</p> <p>腰が大きく幅広く2mm以上あって丸みがあり、がちりしている。</p> <p>種子根と5本の冠根がよく伸び、箱の底に白くつやのあるふとい根がとぐろをまいている。</p> <p>第3葉が2.5cmくらいでいる。</p> <p>第1葉の高さが揃っており葉幅が広い。</p> <p>鞘葉は1cmくらい。</p> <p>目標とする稚苗の姿 (星川氏原図から作成)</p>
時期	昼間	夜間	備考															
緑化	20～25℃	15～20℃	10℃以下、32℃以上にしない															
硬化	15～20℃	10～15℃	5℃以下、32℃以上にしない															
馴化	移植3日前頃から強風や低温時以外は外気にならず、5℃以下、32℃以上にしない																	

作業	作業の注意点		
硬化、馴化	【換気】 ・ハウス内の気温が25℃以上にならないよう換気する。 ・最低気温が10℃以下や強風時以外は夜間もハウスの側面の部分を開放する。 【灌水】 ・夜間の気温が高く床土が高水分だと徒長したり、病気の原因となるので午後3時以降は灌水を控える。 ・高温で日射量が多いと床土が乾燥しやすい。晴天が1日続く日は朝昼2回十分に灌水する。灌水量の目安は500ml/箱。 ・発根を促すため過灌水とならないように灌水する。		
	苗の葉齢	晴天	曇雨天
	1.0~1.3葉	朝1回(高温時床土が乾いたら少量灌水)	行わない
	1.3葉以上	朝、昼の2回	朝1回(または行わない)
【移植前の薬剤苗箱処理】 ・本田での病害虫防除のために、薬剤苗箱処理を行う場合は防除基準を守る。 ・水稻育苗後に育苗ハウスを利用して別の作物を栽培する場合は、跡作に苗箱処理薬剤の影響を出さないように注意する。			

【天気予報】

4月5日5時 福井県の週間天気予報

日付	5 火	6 水	7 木	8 金	9 土	10 日	11 月
福井県	晴 	晴 	曇時々雨 	曇時々晴 	曇時々晴 	曇時々晴 	晴時々曇 
降水確率(%)	-/0/0/0	10/0/0/0	80	30	30	30	20
信頼度	/	/	A	B	A	A	B
福井	最高(℃)	16	20 (17~23)	17 (15~19)	17 (13~21)	17 (13~21)	22 (19~25)
	最低(℃)	/	7	10 (8~12)	10 (8~11)	8 (5~10)	6 (3~10)

気象庁 気象統計情報(各種観測データ)
<http://www.jma.go.jp/jma/menu/report.html>

【メールマガジン e農メール】

福井県内の農業者や農業関係者の皆さまに、稲作情報をホームページに掲載したことを速やかにお知らせするため、携帯電話向けの「e農メール(いーのうめーる)」を配信しています。
 配信を希望される方は、お手数ですが福井県が運営する「eマガふくい」からご登録をお願いします。(福井県メールマガジン利用規約をご確認ください。)なお、登録および情報料は無料ですが、パケット通信料は各自でご負担いただくこととなりますので予めご了承ください。

e農メールの登録については、こちらをご覧ください。
http://www.agri-net.pref.fukui.lg.jp/a_mail.html



携帯電話ではQRコードで簡単アクセス